

沖洲学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善・充実
- ②自ら学び、自ら考える子どもの育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教務主任:宮下鉄矢	委員 校長:米田直紀 副校長:橋本賢治 研修主任、6 学年:長野麻衣 5 学年:土橋由佳 4 学年:大下真季 3 学年:馬越敦子 2 学年:濱口智子 1 学年:濱條敦代
----------------------	---

校長

米田 直紀

【小中連携または中高連携における共通の取組】

語彙力の育成

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○「授業中、先生や友達の話をきちんと聞いている。」(以下 A)の肯定意見は 87.7%であり、聞き方は、よくなってきた。 ●文章や資料の中から必要な部分を探し出すことに課題がある。	・学習課題にしっかりと取り組み、国語・算数の基礎的・基本的な学習内容を確実に習得できる。 ・A の 90%以上を目指す。	・聞き方スキルを提示し、話を理解しながら聞き、自分の意見を進んで話す態度を育てる。 ・朝の活動などで、聞くことの練習を各学級で行う。 ・様々な学習の場において、聴写、メモをとる、インタビューなど「聞いたこと」を表現に生かす活動を反復して取り入れる。	・聞き方のさらなる定着を目指す。 ・聞くトレーニング(聞いた話のポイントを言わせるなど)に取り組む。 ・姿勢やうなずきなどの反応にも気をつけて聞ける態度を育てる。	県ステップアップテスト、全国学力・学習状況調査では、県平均を下回った学年があったものの、その差は昨年と比べて小さくなっている。「授業中、先生や友達の話をきちんと聞いている。」の肯定的意見は、81.3%で目標の達成には至らなかった。	知識等を身につけるために、「聞く」活動の機会を多く取り入れる。ただ聞くのではなく、話の重要な部分を捉えながら聞く習慣を身につけ、さらに、基礎的・基本的な学習内容の習得を目指す。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いたりすることができる児童が増えてきた。 ●「授業中、進んで発表しようとしている」(以下 B)の肯定的意見は、5・6 年生で55.1%であった。	・自分の考えをもち、話したり、書いたりして、相手に分かりやすく表現することができる。 ・B の 60%以上を目指す。	・話し方スキルを提示し、「伝え合い」に使用する語彙を増やし、根拠をもとに話す態度を育てる。 ・学習活動の中で、自分の考えをもち、表現する機会を意図的に設ける。 ・学習用語の意味を理解したり、使い慣れたりするような工夫をする。	・話し合いの前に、個人で考える悲観をしっかり確保する。 ・話し合いの機会を増やすために、ペアやグループでの活動を増やす。	「授業中、進んで発表しようとしている」の肯定的意見は、92.5%で目標を達成した。	昨年度に比べ、学習意欲が 37.4%も増えた、引き続き、自分の考えを持ち、表現する機会を設け、維持していく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、一生懸命取り組むことができる。 ●「家庭でも、毎日勉強をし、宿題をきちんとする。」(以下 C)の肯定的意見は、5・6 年生で 85.3%であった。	・自分自身で考え行動し、主体的に活動できるようにする。 ・宿題や課題はきちんと提出することができ、家庭学習や自主学習に進んで取り組むことができる。C の 90%以上を目指す。	・何を・なぜ・どのように学ぶのが児童に伝わるよう、課題意識をもつ過程を重視し、学習課題や授業のめあてを工夫し、提示する。 ・めあてに対応したふり返りの視点を児童に示し、記述させる。 ・家庭学習の手本となる児童の内容を紹介し、着目すべき点を説明する。	・「徳島版読解力」を生かして、身に付けた学び方を、新たな問題解決に活用する。 ・家庭学習の定着や、学習理解が不十分な児童のつまづきに対して、解決するための助言をする。	「家庭でも、毎日勉強をし、宿題をきちんとする。」の肯定的意見は、88.8%と昨年より増えたものの、目標の達成には至らなかった。	家庭学習の手本となる児童の内容紹介をできるだけ早く行うことで、どのように学ぶべきかの意識を高め、家庭での学習習慣の定着を図る。

